

第Ⅳ部

真実の探求者たちへ：Q&A

第 11 章

UFO・空飛ぶ円盤 Q&A

この辺で、UFO& 空飛ぶ円盤についての質問応答のタイムにしたい。これらの質問はそれぞれ、UFO や空飛ぶ円盤に関して普通の人以上に興味を持つ私の知人たちから前もっていただいていた質問だ。私の理解の範囲内での答えだ。実質的な多くのことは、これまでの各章の中から答えを見い出せるはずだ。

11.1 反重力の原理を無視すべきものか？

もちろん、無視すべきものではありません。反重力ができるということは、フリーエネルギーができることを意味するからです。

例えば、重力を遮蔽するか軽減する石があったとします。その石の上だけ、地球の重力が軽減されるというような石です。すると、その石の上と石の外では、物体の重さが変わります。その場合、ちょうど水車のようなことが起こります。滑車の円周上に等間隔に

石を貼り付けておけば、この滑車は一度回転し始めれば永久に回転します。

これは、ニコラ・テスラが最初に考えたフリーエネルギーの発電方法です。単純ですが、原理的にはこれが最も単純なフリーエネルギーの発電方法です。

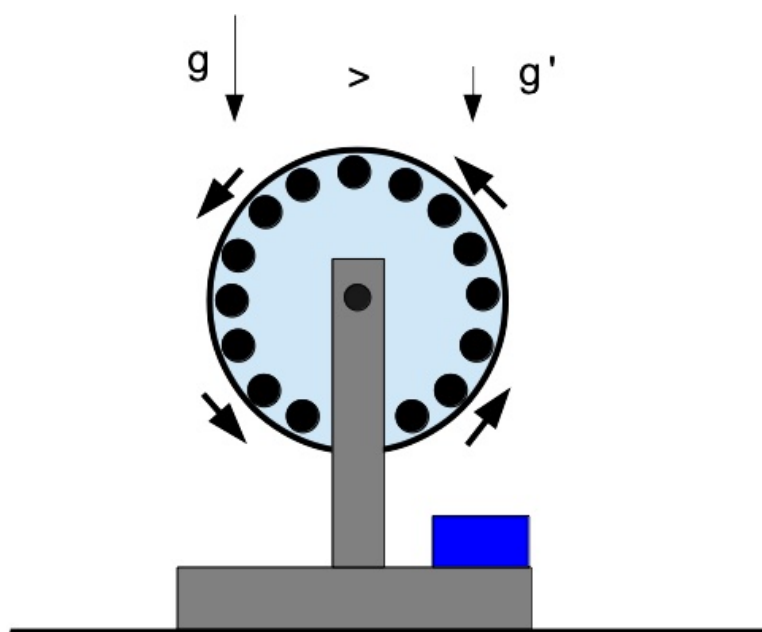


図 11.1 反重力石によるフリーエネルギー発電機

電磁力と重力は力のオーダーとして 10^{40} ほど違いがあります。重力はマクロな物質の大きさになると大きな働きをしますが、ミクロの世界では重力は無視できるほど小さくなります。それに対して電磁力の方は大きさにあまり依存しません。だから、ミクロほど電磁力が効きます。しかしながら、UFO のようなマクロの物体に対しても電磁力は重力を相殺できるほど遥かに強くなります。だから、超伝導体の上では重い金属でもマイスナー効果の完全反磁性効果で浮き上がります。ですから、もし反重力が実現できれば、様々な可能性が出てきます。反重力を決して無視すべきではありません。

せん。

ところで、いわゆるフリーエネルギー発電というものは、上の図の反重力石に対応する部分をいかに制作するかにかかっています。磁石でも永久磁石でも他の装置でも構いません。そのとき、重力や他の力の差を生み出すものがあれば、フリーエネルギー発電は可能になります。ただし、その差を生み出すのに要する入力電力 W_i に対して、回転運動から得られる出力電力 W_o とシステム全体を稼働する時に出る電力消費 W の差の比が1以上にならなければなりません。

$$\gamma = \frac{W_o - W}{W_i}. \quad (11.1)$$

これがオーバーユニティー (> 1) という意味なのです。

11.2 重力を電磁気で制御する方法とは？

我々はアルベルト・アインシュタインの特殊相対性理論と一般相対性理論に影響を受けました。したがって、重力は時間と空間の性質から現れていると考えています。現代科学はこれが基礎になっています。これは、19世紀の流体的なエーテルで詰まった空間を否定しました。代わりに時空間そのものが剛体であるようなイメージに変えました。この剛体空間の場合は、変形するのに莫大なエネルギーが必要になります。

しかしながら、重力は空間のエーテル内部の特殊な事情から生じています。これについて我々は何も知りません。エーテルには流体的な面があります。エーテルは光のような低電圧高周波電磁場に

は剛体のように振る舞います。つまり横波電磁波が伝播します。逆に低周波には流体のように振る舞います。つまり、長い波長の電磁波には縦波が生じます。これがテスラ波やスカラー波です。一方、エーテルは高周波高電圧には気体のようになります。したがって、エーテルのこういう性質を利用する可能性が現れます。電磁波の電圧と周波数を用いてこの性質を使えば、重力を制御できる可能性が生まれると予想されます。これがニコラ・テスラが考えた電磁推進反重力です。

11.3 縦波と反重力との関係はあるのか？

もちろん関係があります。ゲージ場 $\mathbf{A}$ は四次元時空の速度場のようにみなせます。3次元空間の流体力学でいえば、速度場 $\mathbf{v}$ に相当します。つまり、3次元流体速度 $\mathbf{v}$ 場の $\text{div}\mathbf{v} = 0$ の4次元版のように考えられます。この解釈では、デンマーク人ローレンツ・ゲージの左辺は、4次元時空間における発散のように見ることができでしょう。すると、右辺がゼロということは、流体力学における完全流体の条件のようにみなせます。この場合は、時空は非圧縮性の時空間になります。つまり、時空間は剛体とみなせます。だから、電磁波は横波だけが存在できます。

電磁波の縦波が存在する場合、4次元の発散がゼロではなくなります。つまり、デンマーク人ローレンツ・ゲージが成り立ちません。すなわち、いわゆるゲージ原理が成り立たなくなります。この瞬間に理論物理学にある場の量子論は修正を強いられます。この場合は、時空は圧縮性の時空間になります。この場合には、電磁波は

横波と縦波が存在できます。電磁場の縦波のスカラー波は時空の概念を変えます。その結果として重力に影響を与えます。だから、縦波は反重力と関係があります。

11.4 仏や釈迦のように精神を集中させると反重力を発生できるか？

おそらく可能だろうと思います。我々地球人の考える、物質・エネルギー・情報の3つの概念は、現実における一種の射影のようなものだと思います。我々は物質か非物質かの二元論で考えます。非物質は物質の運動状態から生まれるものだろうと考えています。また、非物質的概念である情報は、数学的な概念にすぎないと見ています。情報は情報空間のものであり、リアルな物質やエネルギーと直接の関係はない数学的概念と考えます。あくまで、情報は現実世界には情報エントロピーのような形でしか関与しないと見ています。

しかしながら、情報は物質やエネルギーと同等の物理的存在である可能性が残ります。物質はいわば静止質量であり、エネルギーは空間の振動数です。アインシュタインの関係式 $E = mc^2$ で質量はエネルギーと同等になりました。同じように、情報 (I) は以下の関係式で温度 (T) と結びつけることができます*¹。

$$1J/K = 10^{23}\text{bits.} \quad (11.2)$$

*¹ T. ストウニア著/立木教夫訳「情報物理学の探求」(シュプリンガー・フェアラーク東京, 1992年).

K は絶対温度の単位ケルビンです。これは情報がエネルギー化できることを意味します。1 度あたり 1 ジュールのエネルギーは約 10^{23} ビットの情報と等価だということを示します。

ところが、我々地球人はそれだけです。情報と精神は別物だと考えています。実際には、父と子と精霊のたてのような関連になっていると考えられます。つまり、精神と情報は広く情報場のような実在の場の一側面であると考えられます。

これは、形態共鳴の概念や古いライブニッツのモナドの概念と関係します。物質ではない、物質ではないから普通の空間に存在するわけではない。なにかそういう現実の世界がありえます。さらに、その世界の量子が存在する可能性があります。その量子は情報場や精神場のようなもので、その量子は現実世界の物質場やエネルギー場に転換できる。トム・ストウニア博士は、これをインフォンと名付けました。

もし世界がそのような構造になっているとすれば、精神により物質を生み出したり、エネルギーを与えたり、力を与えたりできる可能性があります。ピート・ピーターソン博士の話からすると、宇宙人はそういう世界があることを知っているように見えます。宇宙人は精神を作用させて円盤を運転させます。彼らの宇宙船は我々人間の観点からすれば生きています。それは、物質でありながら精神場や情報場をフィールドのように放っているからだということになります。デービッド・アデア博士は、それをシンビオティックエンジンと呼んでいます。

11.5 UFO がヘリコプターのホバリングのようではなく、空中静止できる理由はなにか？

まず我々が見る UFO には2種類あることを指摘しておきます。宇宙人機 (Extraterrestrial Vehicle, ETV)、あるいは、宇宙人複製機 (Alien Reverse-Engineering Vehicle, ARV) です。いずれにしても、どちらも小型機の場合は反重力の基本原理は同じように見えます。

まず地球の飛行機の場合を説明します。飛行機は、エンジンの性能にはプロペラからジェットエンジン、さらにロケットエンジンまでさまざまです。しかし、原理はすべて同一で、エネルギーを後ろへ放出し、その方向とは逆方向へ押されるスタイルのエンジンです。これは、ニュートンの古典力学の作用反作用の原理を使います。そして、飛行機は運動方向と垂直に浮力（＝揚力）を得ます。ですから、非常に不安定になります。方向を変えたり速度を変える場合も同様です。翼を用いて空気抵抗を生み出す、その力を用い、翼の動いた方向と逆方向へ力を得ます。

次に UFO の場合を説明します。UFO は、やはりエンジンの種類は電磁推進エンジンから核融合エンジン、さらにシンビオティックエンジンまでさまざまです。しかし、原理はすべて同一で、エネルギーを前に放射し、その方向に引き寄せられるスタイルのエンジンです。むろん、これは我々には未知の原理を使っています。そして、UFO は運動方向と無関係に浮力（＝揚力）を得ます。ですか

ら、非常に安定になります。方向を変えたり速度を変える場合も同様です。電磁エンジンを用いて進行方向へエネルギーを放出し、その方向と同じ方向へ力を得ます。

我々地球の空飛ぶ乗りものでこれに似ているのは、気球と飛行船だけです。ロケットや人工衛星の姿勢制御は、行きたい方向と逆へロケット噴射します。UFO の姿勢制御は、行きたい方向へエネルギー放射します。

UFO の原理の場合は、どのタイプのエンジンであれ、電磁エネルギーを噴射した領域の空間構造 (あるいは時空構造) を変え、そこに空間の拡がりを作るようです。UFO はそこに引き込まれるというスタイルのエンジン思想を使っているようです。

11.6 UFO の無重力空間の推進方法？

UFO は真空そのものを利用しています。ですから、無重力であろうが、重力があろうが無関係です。まったく同じです。

11.7 UFO の加速減速の原理はなにか？

UFO の場合、加速減速の原理は単にエネルギーを放射するかしらないかの違いです。その方向と強さの問題。つまり、エネルギー放射ベクトルの問題です。

11.8 UFO は光速を超えることは可能か？

UFO は時空間を変形できます。したがって、UFO は真空中の光速度を超えることができます。この原理はまだアメリカのジェーソンスカラーでも完全には理解できていなように見えます。

考え方は非常に単純です。UFO が存在する空間のすべて物質の質量を同時にゼロにすることです。その外の空間にいるものには光に見えます。しかし、内部は特に変わりません。

実は、古典力学では、質量ゼロの物質というものは質量物質の定義と自己矛盾しますから、存在しません。ですから、アインシュタインの相対性理論にはこれが暗黙の内に除外されています。ここに相対性理論に盲点があります。これはドイツ人のトム・ストウニア博士が発見したことです^{*2}。さすがにドイツはゲーテやフェヒナー博士の母国です。これはあまりまだ知られていないので、説明しましょう。

粒子の静止質量を m_0 、光速度を c 、速度を v として、相対論のエネルギーの式は以下のようなものです。

$$E = \frac{m_0 c^2}{\sqrt{1 - \frac{v^2}{c^2}}}. \quad (11.3)$$

$$m = \frac{m_0}{\sqrt{1 - \frac{v^2}{c^2}}}. \quad (11.4)$$

^{*2} T. ストウニア著/立木教夫訳「情報物理学の探求」(シュプリンガー・フェアラーク東京, 1992年).

と書くと、これが有名なアインシュタインの関係式になります。

$$E = mc^2. \quad (11.5)$$

この静止質量をゼロにします。すると、以下の関係になります。

$$E = \frac{(0)c^2}{\sqrt{1 - \frac{v^2}{c^2}}} = 0 \quad (11.6)$$

これは、 $v < c$ の場合は、 $m_0 = 0$ なら、 $E = 0$ を意味します。

しかしながら、 $v = c$ の場合は $1 - \frac{v^2}{c^2} = 0$ となり、 $E = (0)/(0)$ は不定になります。すなわち、 E が有限になる場合があります。これが横波の光子の場合になります。

相対的運動量 p についても同じ議論が行なえます。

$$p = \frac{m_0 v}{\sqrt{1 - \frac{v^2}{c^2}}}. \quad (11.7)$$

この場合、静止質量ゼロなら、

$$p = \frac{(0)v}{\sqrt{1 - \frac{v^2}{c^2}}} = 0 \quad (11.8)$$

になります。静止質量ゼロの粒子は、 $v < c$ の場合は運動量がゼロです。しかし、 v は任意で構いません。一方、 $v = c$ の場合は有限の運動量を持てます。これが横波の光子の場合です。

波長についてはどうでしょうか？

波長 λ は粒子の運動量の波動表現です。運動量には以下の関係があります。

$$p = \frac{h\nu}{c}. \quad (11.9)$$

h はプランク定数、 ν は光の振動数です。一方、光には以下の関係が成り立ちます。

$$\lambda\nu = c. \quad (11.10)$$

これらを使えば、

$$\lambda = \frac{h}{p}. \quad (11.11)$$

これに (11.7) を使うと、

$$\lambda = \frac{h \sqrt{1 - \frac{v^2}{c^2}}}{m_0 v}. \quad (11.12)$$

を得ます。静止質量がゼロの場合、 $v \neq c$ の場合は波長は無限大になります。一方、 $v = c$ の場合は波長は有限になります。これが光子の場合です。トム・ストウニア博士は、波長無限大の光子をインフオンと名付けました^{*3}。したがって、光子には2種類あることになります。

1. インフオンの場合、光速度以下の速度で波長無限大の光子。
2. フォトンの場合、光速度で波長有限の光子。

このように、静止質量ゼロの粒子は相対論の例外条件になります。物体は粒子の集まりですから、1粒子に言えることはマクロの物体にも当てはまるでしょう。ですから、もし UFO 全体の静止質量をゼロにできれば、速度を持つが、エネルギーゼロ、運動量ゼロの状態に落ち込みます。我々のいうエネルギーは振動数のことから、エネルギーゼロは振動数ゼロのことを意味します。我々は可

^{*3} T. ストウニア著/立木教夫訳「情報物理学の探求」(シュプリンガー・フェアラーク東京, 1992年).

視光の振動数を見ますから、振動数ゼロの光子を見ることはできません。

問題は $v > c$ の場合、質量が虚数 $m_0 = im_1$ になります。これをタキオンといいます。この場合は、

$$E = \frac{m_1 c^2}{\sqrt{\frac{v^2}{c^2} - 1}}, \quad (11.13)$$

$$p = \frac{m_1 v}{\sqrt{\frac{v^2}{c^2} - 1}}. \quad (11.14)$$

通常は $v < c$ の場合と同様の議論で、タキオンの静止質量 m_1 がゼロの場合は考えません。この領域でも上と同じ議論を使えば、タキオン領域で、静止質量ゼロのタキオンを考える場合があります。 $v > c$ のタキオンは $v < c$ の粒子に対応するものです。インフオンに対応するものではありません。インフオンはタキオンと粒子の間に位置するものです。したがって、 $v > c$ のタキオン側からもインフオンに相当するものがあります。

したがって、静止質量をゼロにする技術があれば、UFO はなめらかに光になって消え、なめらかにインフオンに変わり、なめらかにタキオンになれる可能性があります。どうやら、宇宙人にはそういうことを行う技術があるようなのです。

また、理論物理学には相対論的粒子を扱うディラック方程式というものがあります。

$$\left[c\boldsymbol{\alpha} \cdot \mathbf{p} + m_0 c^2 \beta \right] \psi = E\psi. \quad (11.15)$$

$$\psi = \begin{bmatrix} \psi_1 \\ \psi_2 \\ \psi_3 \\ \psi_4 \end{bmatrix}. \quad (11.16)$$

ここで、 c は光速、 $\alpha = (\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3)$ と β はある 4 行 4 列の行列です*⁴。このディラック方程式は上の古典力学のアインシュタインの式に対応します。

一方、電磁場に対しても同じようなことをすることができます*⁵*⁶。電場 $\mathbf{E} = (E_1, E_2, E_3)$ と磁場 $\mathbf{H} = (H_1, H_2, H_3)$ を虚数 i を用いて、複素電磁場 $\psi_k = E_k + iH_k$ を定義します。これと通常のマックスウェル方程式使うと、電磁場のディラック方程式のようなものが得られます。見かけ上は、上の電子のディラック方程式における電子の静止質量 m_0 をゼロにしたようなものです。

$$[c\alpha \cdot \mathbf{p}]\psi = E\psi, \quad (11.17)$$

$$\psi = \begin{bmatrix} \psi_1 \\ \psi_2 \\ \psi_3 \end{bmatrix}. \quad (11.18)$$

ここでの α は、次のようなものです。

$$\alpha_1 = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & -i \\ 0 & i & 0 \end{bmatrix}, \alpha_2 = \begin{bmatrix} 0 & 0 & i \\ 0 & 0 & 0 \\ -i & 0 & 0 \end{bmatrix}, \alpha_3 = \begin{bmatrix} 0 & -i & 0 \\ i & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}. \quad (11.19)$$

*⁴ $\alpha_1^2 = \alpha_2^2 = \alpha_3^2 = \beta^2 = 1; \alpha_k \beta + \beta \alpha_k = 0; \alpha_j \alpha_k + \alpha_k \alpha_j = 2\delta_{jk}$.

*⁵ 第 10 章参照。

*⁶ コンスタンチネス・マギアリ著「量子力学 (上)」(共立出版, 1974 年). 149 ページ; コンスタンチネス・マギアリ著「量子力学 (下)」(共立出版, 1974 年). 176 ~ 179 ページ。

詳細は省きますが、結果は実に示唆的です。この方程式 (11.17) の固有エネルギーは、次の 3 つ出て来ます。

$$E = \pm cp, 0. \quad (11.20)$$

$E = cp$ は右偏光の横波光子に対応し、 $E = -cp$ は左偏光の横波光子に対応します。 $E = 0$ が無偏光の縦波電磁波、インフオンに対応します。

したがって、マックスウェル方程式には本質的に縦波が含まれています。その固有値はゼロです。エネルギーゼロのゼロモードの縦波があります。しかし、このゼロモードの存在はデンマーク人ローレンツ・ゲージを課すことで除去されるのです。

だから、電磁気学は常に 3 個の独立なモードのうちの 1 個のゼロモードの縦波の自由度分が足りなくなるのです。そこでさまざまの問題が生じますが、そういうことは普通議論の対象にはなりません。大学でも教えません。

しかしながら、これがニコラ・テスラが「見える光」と「見えない光」があると言った意味だと思います。ゼロモードは見えません。しかし進行方向に振幅を持ちます。

11.9 UFO を作る物質はなにか？ 地球上に存在するものか？

UFO にはマンメイドと ET メイドの 2 種類あります。

マンメイドの場合は基本的には地球のものです。ET から学んだ UFO の場合は、核融合エンジンの燃料それだけが地球外のものの

ようです。

ET メイドの場合には、UFO の物質は地球外のものです。物質が同じ場合でも構造が全く異なります。物質が全く異なる場合もあるようです。それは、原子の周期律表で我々の外にある未知の原子を持っているからです。

元素の周期表
The Periodic Table

周期\族	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	1 H 水素 1.00798																	2 He ヘリウム 4.0026
2	3 Li リチウム 6.968	4 Be ベリリウム 9.01218											5 B 硼(ホウ)素 10.814	6 C 炭素 12.0106	7 N 窒素 14.0069	8 O 酸素 15.9994	9 F 弗(フッ)素 18.9984	10 Ne ネオン 20.1797
3	11 Na ナトリウム 22.9898	12 Mg マグネシウム 24.306											13 Al アルミニウム 26.9815	14 Si 珪(ケイ)素 28.085	15 P 燐(リン)素 30.9738	16 S 硫黄 32.06	17 Cl 塩素 35.452	18 Ar アルゴン 39.948
4	19 K カリウム 39.0983	20 Ca カルシウム 40.078	21 Sc スカンジウム 44.9559	22 Ti チタン 47.867	23 V バナジウム 50.9415	24 Cr クロム 51.9961	25 Mn マンガン 54.938	26 Fe 鉄 55.845	27 Co コバルト 58.9332	28 Ni ニッケル 58.6934	29 Cu 銅 63.546	30 Zn 亜鉛 65.38	31 Ga ガリウム 69.723	32 Ge ゲルマニウム 72.630	33 As 砒素 74.9216	34 Se セレン 78.971	35 Br 臭素 79.904	36 Kr クリプトン 83.798
5	37 Rb ルビジウム 85.4678	38 Sr ストロンチウム 87.62	39 Y イットリウム 88.9058	40 Zr ジルコニウム 91.224	41 Nb ニオブ 92.9064	42 Mo モリブデン 95.95	43 Tc テクネチウム [99]	44 Ru ルテチウム 101.07	45 Rh ロジウム 102.906	46 Pd パラジウム 106.42	47 Ag 銀 107.868	48 Cd カドミウム 112.414	49 In インジウム 114.818	50 Sn 錫(スズ) 118.710	51 Sb アンチモン 121.760	52 Te テルル 127.60	53 I 沃(ヨ)素 126.904	54 Xe キセノン 131.293
6	55 Cs セシウム 132.905	56 Ba バリウム 137.327	※1	72 Hf ハフニウム 178.49	73 Ta タンタル 180.948	74 W タングステン 183.84	75 Re レニウム 186.207	76 Os オスミウム 190.23	77 Ir イリジウム 192.217	78 Pt 白金(プラチナ) 195.084	79 Au 金 196.967	80 Hg 水銀 200.592	81 Tl タリウム 204.384	82 Pb 鉛 207.2	83 Bi ビスマス 208.980	84 Po ポロニウム [210]	85 At アスタチン [210]	86 Rn ラドン [222]
7	87 Fr フランシウム [223]	88 Ra ラジウム [226]	※2	104 Rf ラザフォード [267]	105 Db ドブニウム [268]	106 Sg シーボーギウム [271]	107 Bh ボーリウム [272]	108 Hs ハッシウム [277]	109 Mt マイトネリウム [276]	110 Ds ダームスタチウム [281]	111 Rg レントゲニウム [280]	112 Cn コペルニシウム [285]	113 Nh ニホニウム [286]	114 Fl フレロビウム [289]	115 Mc モスコビウム [289]	116 Lv リバモリウム [293]	117 Ts テネシン [293]	118 Og オガネソン [294]
※1 ランタノイド系	57 La ランタン 138.905	58 Ce セリウム 140.116	59 Pr プラセオジム 140.908	60 Nd ネオジム 144.242	61 Pm プロメチウム [145]	62 Sm サマリウム 150.36	63 Eu ユウロピウム 151.964	64 Gd ガドリニウム 157.25	65 Tb テルビウム 158.925	66 Dy ジスプロシウム 162.500	67 Ho ホルミウム 164.930	68 Er エルビウム 167.259	69 Tm ツリウム 168.934	70 Yb イットリビウム 173.045	71 Lu ルテチウム 174.967			
※2 アクチノイド系	87 Fr フランシウム [227]	88 Ra ラジウム [226]	89 Ac アクチニウム [227]	90 Th トリウム 232.038	91 Pa プロタクトニウム 231.036	92 U ウラン 238.029	93 Np ネプツニウム [237]	94 Pu プルトニウム [239]	95 Am アメリシウム [243]	96 Cm キュリウム [247]	97 Bk バーケリウム [247]	98 Cf カリホルニウム [251]	99 Es アインシュタイン [252]	100 Fm フェルミウム [257]	101 Md メンデルビウム [258]	102 No ノーベリウム [259]	103 Lr ローレンシウム [262]	

表の見方
セル内の表記
原子番号 元素記号
元素名(日本語)
元素名(英語)
原子量

セルの色
の元素は、単体の物質が金属の性質(光沢がある、電気や熱をよく通す、陽イオンになりやすい、など)を持つ。
の元素は、単体の物質が非金属の性質を持つ。
の元素は、単体の物質がその中間の(半導体的、半金属的)性質を持つ、ことを示す。

【元素記号の色】
赤字は、単体の物質が常温・常圧(25℃、1気圧)で気体。
青字は、単体の物質が常温・常圧で液体。
黒字は、単体の物質が常温・常圧で固体である、ことを示す。

参考文献
国立天文台編「理科年表 2018年版」、丸善
... 他

※ 原子量が範囲で示される元素の原子量は、簡単のため、範囲の中間値を記した。
※ 安定同位体がなく、天然で特定の同位体組成を示さない元素については、その元素の放射性同位体の質量数の一例を [] 内に記した。

《2018.06 作成: iseri》

図 11.2 周期律表

<https://ja.wikipedia.org/wiki/周期表>

11.10 UFO の質量はどれくらいか？

UFO には質量は関係ありません。どんなものでも静止質量をゼロにする技術があれば、重さは無関係です。最大のものは、数キロ

メートルの巨大な UFO があるようです。SSP のものでも、すでに 1000 人レベル運ぶマンメイド UFO が 1960 年代には作られたようです。いまは米原子力潜水艦ほどのソーラーウォーデンがあるようです。原潜には 5000～10000 人が乗っていますから、そのくらいの間人は乗れるでしょう。

11.11 窓はあるか？ 窓の物質は何か？

当然窓はあります。特に人間タイプの宇宙人の UFO は我々と同様の目を持ちますから、窓があります。窓の物質はさまざまのものがあえます。我々の宇宙船の普通の耐熱ガラスや巨大水槽や透明プロテクターのプラスチックで十分だと考えられます。

一方、グレイタイプの宇宙人の場合は、我々より能力が進んでいます。彼らは我々には未知の精神力を用いる手法を持っているので、窓は必要ないようです。窓がなくても、中にクリスタルのモニターがあり、それに映し出すようです。このイメージはすでにハリウッド SF 映画で利用されています。そういう映像イメージのモノマネは地球人は得意です。我々地球人は頭悪いですから、見た目を真似することしかできません。

11.12 UFO の外殻の耐熱温度は？ 使用可能温度？

温度を問題にする必要はありません。我々が温度が気になるのは、反重力の原理の本質を理解してないからです。摩擦がないから

温度が上がることはないのです。むしろフリーエネルギーや反重力を使う場合は温度が下がります。

地球人の物理学者では、ハロルド・E・パソフ博士のグループが電磁気学と熱力学は異質のもので、熱力学のエネルギー概念は使えないことを証明しています*⁷。

11.13 UFO の内部の力はなにか？

UFO が作れる文明の場合、UFO の推進力は重力を作る技術です。ですから、UFO 内部空間の重力は内部で作ります。通常電磁推進ですから、内部も電磁的に重力を作ります。

ウンモ星人のユミットの場合は、比較的原始的で地球文明に近いです。彼らの UFO は、内部の重力は遠心力です。外側に張り付きます。

中には、内部にいる時は、液体に満たされている場合があります。この場合は、静水圧で重力は問題ありません。仲間の通信は精神作用や光通信で行うため、重力の作用を受けません。

マンメイド UFO の場合は、内部の重力はビーフェルト・タウンゼント効果で作るようです。高電圧効果で生み出すようです。

*⁷ Daniel C. Cole and Harold E. Puthoff, "Extracting energy and heat from the vacuum", Physical Review E **48**(2) pp.1562-1565 (1993).

11.14 急激な方向転換で質量の慣性に絶えられるのはなぜか？

これも同じことです。外部の重力に対して慣性が働くのは静止質量があるからです。外部に対して静止質量がゼロになれば、内部空間には慣性は働く必要がありません。UFO 全体が見えない光になっているからです。

しかしながら、宇宙人にはさまざまなレベルのものがあります。

ウンモ星人の場合は、我々の「2001年宇宙の旅」の人工衛星のような回転による遠心力を使うようです。彼らの UFO の内部のコックピットは遊園地の回転木馬たローターのように回転しています。UFO が一般に回転しているのはそのせいかもしれません。内部ではパイロットは液体に浸かる場合が多いようです。静水圧で完成による衝突を避けます。

より高度のプレアデス人の場合は、内部はまったく地上と同じ状態のようです。自由に生活できます。一般に、こちらの方が多そうです。この場合は、UFO を全体を包む場の内部空間全体が外部の空間と独立します。この技術が最初に静止質量をゼロにする方法だと考えられます。

11.15 恒星間の移動方法は？ UFO のワープの方法は？

コズミックディスコロージャーの話が真実だとしましょう。この場合、恒星間の移動法はワープのようです。

しかし、ワープは一般相対性理論に基づいて考えるようなものではないようです。一般相対性理論の場合は、ブラックホールからホワイトホールに続く穴を移動すると考えます。そういう剛体力学に基づく単純で原始的なアイデアはありません。

宇宙には時空の割れ目が起きる場所があるようです。そういう場所を使います。それにうまく入れたら、ワープできるというようなものです。

例えとしては、昔の帆船時代を思い出してください。我々の宇宙船が帆船だとします。岩手沖の偏西風に乗ることができれば、あっという間に北米に行くことができます。あるいは、飛行機の場合、ジェットストリームがあります。うまくジェットストリームに乗れば、楽に目的地の方向へ移動できます。

どうやら銀河と銀河をまたぐこの大宇宙には偏西風のつなぎ目、ジェットストリームのつなぎ目のような、時空間のつなぎ目があるようです。その中へ入ると、恒星から恒星へ、銀河から銀河へ早く移動できる場所があるようなのです。この宇宙像はいまのエーテルを否定した静的な相対論の価値観からは生まれません。

この宇宙はもっとダイナミックで動的なものです。大航海時代のイメージに近いようです。荒れている場所もあれば、穏やかな場所

もあります。時間により、荒れた大海洋だったり静かな海だったりします。荒々しい宇宙像です。

目的地に応じて、そういう宇宙のエーテルの風、宇宙の時空のつながりの移動、生成消滅を利用し、目的地へ行く。そういう感じのようです。宇宙人でもそれに失敗すれば遭難して死にます。宇宙へ出るということはそういうことを覚悟した上で望むことになります。まさに宇宙大航海時代です。

11.16 トランスポーターションや瞬間移動の原理が UFO にあるのか？

もちろん、UFO には地球人から見ればトランスポーターションや瞬間移動にみえる原理があります。基本的には、静止質量をゼロにする機械だと思います。トム・ストウニア博士のいうインフォンの世界に入る技術です。

日本人の言葉でいけば、魂や靈魂の世界に入る技術です。光のようで光ではない。無のようで情報の塊。そういう、我々が情報という数学概念で掴みきれないなにかの非物質的な世界が存在するのです。

これは、湯川秀樹博士の素領域理論を拡張した保江邦夫博士の形而上学的素領域理論^{*8*9}で言わんとするものに近いかもしれません。しかし、素領域論および形而上学的素領域理論の描像は、普通

^{*8} 保江邦夫/井口和基著「物理で語り尽くす UFO・あの世・神様の世界」(ヒカルランド, 2015年).

^{*9} 保江邦夫著「神の物理学: 甦る素領域理論」(海鳴社, 2017年).

の時空間や多次元空間のイメージから逸脱できていません。そこでもデカルト座標系、つまり、紙が先でその上に絵が描ける世界、黒板の上に書ける世界、を超えていません。

情報空間では、大きさや向きは無関係、場所も無関係です。容量だけが問題です。この地球全体の情報が、小さなチップに入ります。そういう世界の絵は書けません。アルゴリズムでしか書けないのです。我々の科学技術でもそういうことができるわけです。ですから、我々を包み込むこの世界はもっと巧妙に同じようなことを行っている可能性があります。どうやら宇宙人はそれをまったく違う認知の仕方で知っているようです。

11.17 UFO が来るのは交流なのか？

UFO には ET メイドとマンメイドの2種類があるのは説明しました。マンメイドのUFOの場合は、いまのところ米軍、ロシア軍、中国軍などが戦争目的で作っています。ですから、いまの所、交流ではありません。しかしながら、軍部内では交流のためもあります。ある軍部から別の軍部への輸送に使うわけです。そのうち、これがスピンアウトすれば、民間用になるでしょう。

一方、ET メイドの UFO の場合、つまり、外宇宙からの UFO は、交流、物資獲得、地球人への警告やアシスト、地球人支配など、いろいろあるようです。来訪の理由はそれぞれの宇宙人の母星惑星の事情によります。彼らは遊びに来ているわけではありません。必要物資だけ頂いてすぐ去るものがほとんどです。この場合は、人間や動物や植物を食料にする場合もあります。スピルバーグの「ET」のように、研究目的で資源探査し、すぐ去るものもあるようです。

それ以外に、欧米人型の宇宙人がいます。彼らの多くは、自分たちに似た地球の欧米人の核兵器による核戦争を危惧しています。それを地球の政治家に知らせるために来るものが多いようです。やはり見た目の親近感が宇宙人にもあると思います。

我々が外国へ行った場合を思い起こしてください。ペルーへ行ったとします。その支配層の白人より、田舎の現地のネイティブインディオのペルー人の方に親近感が湧きます。そういうことは宇宙レベルでもありえます。

11.18 かぐや姫は UFO に乗っていったのか？

かぐや姫の話が事実だったとします。その場合は、いうまでもなく、反重力を使った乗り物に乗っていたと思います。竹が光っていたというのも、インフオンを使っていた可能性があります。かぐや姫の成長が非常に早かったのは、やはり彼女が宇宙人だった可能性が高いです。

同様に、ひょっとしたら、桃太郎もそのようなものだったかもしれません。桃から生まれたというのは、小型の球形円盤から生まれたのかかもしれません。桃太郎の場合もすばやく成長します。